

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470201102
法人名	医療法人社団 廣風会
事業所名	グループホーム ル・ミエール
訪問調査日	平成19年10月16日
評価確定日	平成19年11月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1470201102
法人名	医療法人社団 廣風会
事業所名	グループホーム ル・ミエール
所在地	221-0863 横浜市神奈川区羽沢町1196-18 (電話)045-370-6886

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F
訪問調査日	平成19年10月16日
評価確定日	平成19年11月30日

【情報提供票より】(平成19年10月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 2月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
常勤	11 人
非常勤	4 人
常勤換算	12.8 人

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	54,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無	有(240,000 円)	有りの場合	有/無	
(入居一時金含む)	無	償却の有無		
食材料費	朝食	250 円	昼食	430 円
	夕食	370 円	おやつ	150 円
	または1日当たり	円		

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86 歳	最低	70 歳	最高	102 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	新横浜南クリニック、上白根病院、橋本歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この経営は医療法人社団の廣風会、整形外科病院が母体で、近くに老健ラ・クラルテ、新横浜南クリニックを持っている。介護の色々な面でこれらの施設を活用出来るのは強みである。例えば医師、看護師、栄養士、リハビリテーションの施設と技師などである。健康管理については月2回のグループ内の医師の往診があり定期検診を含めた医療チェックをしてくれている他、退所時などでは老健、医療の施設の活用・連携が可能であり大きなメリットとなっている。ロケーションは神奈川区の北部の住宅地にある。前を交通量の多い道路が通っているが、まだ畑も残っているところである。特長の1つは書式の有効活用である。書式の重複を避け、新人でも分かりやすく、パソコンを活用し、系統的に活用出来る体制となっている。2点目は緊急時への備えである。階段上下などの日常リハビリ、緊急持ち出しファイル、非常持ち出しリュックの常備、町内会との防災ネットなど確立している。廣風会ネット活用によるパワーリハビリテーションの利用も大きなメリットとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回、特に課題は無かったが、事業所の多様性を生かした活動の強化に取り組んだ。特に、開所してから2年半を経過し、入居者さんのADLは確実に低下の傾向を辿るなか、ネットワークを活用した活動に力を入れた。老健ラ・クラルテのSTによる週1回のパワーリハビリテーション、栄養士による栄養相談、口腔ケア、口腔リハの実施、見た目のきれいなソフト食の提供などADL維持に大きな力となっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、職員全員に自己評価表を配り、記入してもらった。それを集めて全員で集約してホームの自己評価を作成した。管理者はまだ着任1年未満であり、職員の把握とベクトル合わせに活用して行く予定である。改善すべき事項については、職員に展開し、早急に改善に着手して行くことにしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は9月29日に開催した。この面白いところは、隣の自治会が参加しているところである。自治会の境界にあり、実際はこの隣の自治会の方が接触が多く、その自治会長さんが声をかけてくれた。地の自治会も快く応じてくれたので、メンバーは地の自治会長、副会長、隣の自治会長、地域包括支援センターの方それぞれご家族とホーム関係者で実施した。民生委員の方は丁度、交代時期に当たって次回からの参加となっている。ホームで議題他を纏めたファイルとノートを委員に配布し、記録をせずに討議に集中出来る気配りをしたホーム長は流石であり感心した。次回は12月2日実施の予定である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 新ホーム長になって第2回目の家族会を開催することが出来た。家族会での大きな議題は納涼会の実施について、ご家族の協力を得て、ご家族と職員で利用者と一緒に楽しみ、喜べる企画とそれの実行を話し合い実施した。3者の絆は以前に増して深まった。家族会についてもレジュメを作り、充分討議に集中出来るよう工夫した。その他ではル・ミエール通信で日常の様子をお知らせするようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 従来から1軒の家として近所付き合いをし、その近所付き合いを基調にして普通の生活、地域との共存の実現を目指して来た。運営推進会議や地域密着の話し合いがその近所付き合いの上に自然な形で進行出来た。バス停を中心としたご近所との交流、バス待ちの人との会話、スイミングバスバス待ちの子どもたちとの交流、遊びに行ってもいい?と聞いて遊びに来る近所の子ども、イベントに参加する近所の人達、ここには自然の近所との交流がある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で安心して暮らして頂けるように理念を持って取り組んでいる。又、地域との交流の機会を得るべき情報を収集している。家庭あつての地域、家と家との普通の近所付き合いを大切にしている。		理念を職員全員が理解し、理念の実現に向けて日々実行している。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的にグループホームの意義や目的を職員に伝え、業務改善に努め、施設内に理念を書いた用紙を掲示している。時折、読み合わせをし、理念を全職員が再確認をしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の子供たちやその親が時折遊びに来ている。今まで家と家との普通の近所付き合いを大切に過ごしている。行事等に参加できそうなものはあるが、条件が合わずなかなか参加するまでには至っていない。	○	参加が出来るような行事等には参加をしていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義については、理解されていると思う。職員全員に自己評価表を配り、記入をお願いしており、全員の分を集約したものを記入している。	○	要改善になった項目については、早急に改善に向けて努力していく。昨年の分については、大半は改善されている。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ここの運営推進会議の面白いところは、隣の自治会が参加しているところである。自治会の境界にあり、実際はこの隣の自治会の方が接触が多く、その自治会長さんが声をかけてくれた。地の自治会も快く応じてくれたので、メンバーに加えて実施している。話し合った事柄を施設運営に取り入れ、反映させている。	○	これからは、職員も運営推進会議に参加し、地域との交流に、積極的に参加していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域をつなぐ交流会等、地域の集まりには積極的に参加し、交流の機会を作る。	○	これからも、地域交流の場に積極的に参加していくが、そこに職員も参加していけるようにしていく。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の暮らしぶりについては、必ず月1回、写真入のお便りを、御家族等に送付している。又、特変のある時や、小さな事でもこまめに電話連絡をしている。ケアプランも随時提示している。常時、連絡ノートを置き、家族や医師間で活用している。		これからも、継続し情報の提供に努めていく。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書の中に苦情受付の場所や電話番号等を明記している。又、直接苦情等の申し出があった場合は、受付簿なる書類を作成しており、いつでもその内容について、迅速に対処し、改善に努めている。		今まで、苦情について外部への通報は聞かれないが、表せる機会については、情報を提供している。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は、なるべく行わないようにしている。但し、やむを得ず移動等が必要になった場合は、職員の意見も取り入れるようにしている。		入居者にとっての職員交代により信頼関係や充実した介護が出来なくならないように配慮をする。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報がいった場合は、事務所内に掲示し、内容によっては、職員に個別に声掛けをしている。又、職員より研修参加の申し出があった場合は、参加出来るように調整を行なっている。年間を通して、研修計画を立て、全職員が何らかの研修に参加出来るようにしている。個別に研修への参加を促すようにしている。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修・交流会を通して情報を得られており、反映する機会を得られている。近隣のグループホーム同士の交流する機会を得たいと考えている。	○	横浜市のグループホーム連絡会は区ブロック毎に分科会を持つようになってきている。そこへ機会があれば参加している。又、近隣のグループホーム同士の交流の機会も持っている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	始めは、慣れて頂く事を目標とし、ご本人が安心して過ごせるような雰囲気作りや人間関係を作るようにしている。事前の見学や入居を前提としたステイなど行っている。		これからも、継続していく。其のために事前の情報収集に努め、知り得た情報を職員全員で共有していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の会話などで、年長者として職員の知らないことを教えていただき、職員が一つの家族のように温かい関係を築けるように日々努力して交流している。人生の大先輩として敬い尊敬の念を忘れずに、昔の経験や知恵を傾聴するよう努めている。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションが取れる方に関しては、居室担当がご本人の思いを確認して意向を把握している。困難な場合においては、ご本人の言動等から意向を把握するよう努めている。これからも今以上に職員間で話し合いをし、その方にあった暮らし方を検討していく。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月ケース会議を行ない、職員全員が集まりサービス内容を考えている。ご家族からの意見があった場合は、それについても検討をしている。必要な場合にはその都度ケース会議を行ない、早期解決を行っている。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身の変化については、随時把握するように連絡ノート等を利用し必要に応じて話し合い、内容についても見直しをしている。介護計画については、一目見ただけで、介護方針がわかるような内容とし、変更が生じた場合は速やかに見直しを行い、全員に周知するようにしている。	○	今後も重点項目と認識し継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設内だけではなく、グループ施設を活用し、クリニック受診や専門のSTによるパワーリハビリのサービス(週1回)、栄養士の活用等事業所の多機能を活用している。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が月2回往診し、職員はその際に、ご本人の体調やご希望を医師に伝え、又医師の返答を利用者に的確に伝える。		これからも、ご本人とご家族の希望は尊重し、支援をしていく。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医やご家族と小まめに連絡を取り合っている。そして、その方が本当に望まれることを第一優先とし、方針が決定したら、その内容についてご本人・御家族・主治医・介護職・施設とで共有する。その内容について、文書が必要であれば、準備をしている	○	今後、ターミナルについての勉強会を開き、ル・ミエールとしての基本姿勢を打ち出していく。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「安易な言葉掛けが、虐待に成る事もある」事を、日頃から職員に話し、場合によってはその場で注意をしているが、全体的にはいつも、丁寧な言葉掛けが出来ているように思える。		これからも、個人の生育歴や生活歴を尊重し、知り得た情報については、記録等に残す場合は、言葉や書き方に充分注意をすることを気をつける。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方に合った体力や行動力・又こだわり等に出来るだけ希望に添った支援を行うように努力をしている。	○	今後もその方に合ったその日のペース作りを心掛けたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事に関しては、出来るだけ季節の食材を取り入れ、果物も毎回提供できている。又、お誕生会や行事食については、入居者の希望を取り入れ、誕生会については、その方の好みや郷土料理を提供している。		食事ボードを作り、毎日の食事メニューを利用者が確認できるようにしている。食事の簡単な準備や後片付けは、職員と一緒にこなしている。お手伝いについては、出来る方に、その方の出来ることをお願いしている。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できる限り、希望日や時間帯を考慮している。又、その時の状況(失禁等)に応じて、何時でも入浴に応じている。拒否があった場合は、決して無理強いしない。		入居者の生活リズムを理解し、支援できていると思う。これからも、拒否があっても決して、無理強いしない。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の家事(食器の片付け、洗濯物のたたみ等々)を毎日の日課として、レクリエーションの時間も設けて出来る事したい事を提供している。又、個別レクリエーションと称し、今、ご本人のしたいこと。行きたいところ。等を会話の中から、探り出し、個別に実施している。		これからも、その方の生活歴や生育歴等の情報を得て、その方が、今一番されたいことを探り出し、その事が叶えられるように支援していく。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブについては、日常的に行っており、外出や外食は月に1回程度、又個別に外出する機会も設けている。		今まで通りに、外出の機会を設けていく。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に玄関や居室には、鍵は掛けていない。強風時、夜間時のみ安全を考えて、門を閉めている。		これからもできる限り、本人の行動の自由は大切にしていきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1～2回の消防訓練を行なっている。又、地域の方々からの協力が得られるように、日頃から地域の方との連携をとっている。日々の中で、いざ！という時のために、2階の方については、階段を利用したり、体操によって足が弱くならないように、心掛けている。	○	全職員が参加できるような働きかけを行ない、周知していくこと。又、今後も、地域の方とのかかわりの中で協力体制が得られるように連携をとっていく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回、飲食・水分の記録は行い、個人の状況に合わせて、お好みの飲食を提供をしている。又、その時の体調や、気分によりその方の身体状況に合わせた、飲食物を提供している。		これからも、栄養バランス等を考えながら、ご本人の嗜好を取り入れ、楽しめるものにしていきたい。又、表を常にチェックして一定の量を摂取できるように注意を払う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・フロアー・テーブルの上等に季節の花を飾り、それぞれの居室にも自分で活けた花を飾っている。壁には季節感を表現した壁紙が貼られている。また、フロアーには常に、ささやく程度の音楽が流れている。		これからも、季節感を取り入れながら、更に家庭的な雰囲気作りに努めたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れた物を使用させていただいている。それに伴い、安全に配慮した配置を心がけている。		あくまでもご自分の部屋を基本的に部屋作りに心掛けている。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム ル・ミエール
所在地 (県・市町村名)	221-0863 横浜市神奈川区羽沢町1196-18
記入者名 (管理者)	後藤 孝子
記入日	平成 19 年 10 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で安心して暮らして頂けるように理念を持って取り組んでいる。又、地域との交流の機会を得るべき情報を収集している。		その理念に付き、職員全員が理解し、理念に向けて実行している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的にグループホームの意義や目的を職員に伝え、業務改善に努め、施設内に理念を書いた用紙を掲示している。		時折、読み合わせをし、理念を全職員が再確認をしている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	御家族とは、日常の面会時や、毎月のお便り、行事の時等に日々の出来事等を見て頂き、理解して頂けるように取り組んでいる。又、毎年1回、家族会を開催し、理念を説明している。運営推進会議に於いても、施設の理念を説明し、ご理解とご協力を得られる努力をしている。	○	運営推進会議を通して、地域の方が施設に望む事を理解し、掲示板等を活用し、地域の方々にもっと施設の事を知っていただけるようにしていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所の方にお会いしたら、こちらからご挨拶をし、ホームについて尋ねられた場合は出来るだけお答えし、施設に立ち寄っていただけるように努力をしている。行きつけのケーキ屋さんとは、すっかり顔なじみで、お互い快くお付き合いをしている。	○	行事などを通して、ご近所の方々にもっと気軽に立ち寄って頂けるよう取り組みたい。又、お年寄りの介護をされている方の相談等を受けられるようなホームにしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の子供たちやその親が時折遊びに来ている。行事等に参加できそうなものはあるが、条件が合わずなかなか参加するまでには至っていない。	○	参加が出来るような行事等には参加をしていく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症についての相談を受け付けている(施設前の掲示板にて)。実際に、ご近所の方が相談に訪れる事がある。	○	職員の意識を向上し、地域の方々の役に立てるような受入れ体制を作る。
---	--	---	---	-----------------------------------

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義については、理解されていると思う。職員全員に自己評価表を配り、記入をお願いしており、全員の分を集約したものを記入している。	○	要改善になった項目については、早急に改善に向けて努力していく。去年の分については、大半は改善されていると思う。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設長が参加し、話し合った事柄を施設に取り入れ、反映させている。	○	これからは、職員も運営推進会議に参加し、地域との交流に、積極的に参加していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域をつなぐ交流会等、地域の集まりには積極的に参加し、交流の機会を作る。	○	これからも、地域交流の場に積極的に参加していくが、そこに職員も参加していけるようにしていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度に関する講習会に参加し、入居者を始め、相談に訪れた方に説明をしている。又、必要があれば職員に説明をしている。	○	この制度について、研修の機会を設けて、参加出来るように支援をしていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、手を挙げたりすることだけが、虐待ではなく普段何気なく使っている言葉にも虐待と取られる事がある旨の説明もしている。	○	虐待や個人情報についての外部研修には、職員全員が参加出来るようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、毎回全ての契約書の内容を一語一句残さず説明し、了解を得た時点で次の項目に進めることとし、すでに契約が終了をしている御家族にも必要があれば、契約の内容について、同じように説明を行なっている。		今まで通りに、契約の関しては、不手際が生じないように細心の注意をして取り組むこととする。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者のご希望等は、できる限り反映させている。		ご意見が出た場合は、それらについて話し合い、改善に向けていく努力をする。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の暮らしぶりについては、必ず月1回、写真入のお便りを、御家族等に送付している。又、特変のある時や、小さな事でもこまめに電話連絡をしている。ケアプランも随時提示している。常時、連絡ノートを置き、家族や医師間で活用している。		これからも、継続し情報の提供に努めていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書の中に苦情受付の場所や電話番号等を明記している。又、直接苦情等の申し出があった場合は、受付簿なる書類を作成しており、いつでもその内容について、迅速に対処し、改善に努めている。		今まで、苦情について外部への通報は聞かれないが、表せる機会については、情報を提供している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常時、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	○	意見や提案を聞く機会には設けているが、それを実行に繋げるのに苦慮している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	中々、全ての要求を取り入れることは難しいが、通院等は御家族やその方の状況に応じて対応をしている。	○	その日の状況に応じて、人員を配置することもある。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は、なるべく行わないようにしている。但し、やむを得ず移動等が必要になった場合は、職員の意見も取り入れるようにしている。		入居者にとっての職員交代により信頼関係や充実した介護が出来なくならないように配慮をする。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み	研修の場や、		

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の情報が人った場合は、事務所内に掲示し、内容によっては、職員に個別に声掛けをしている。又、職員より研修参加の申し出があった場合は、参加出来るように調整を行っている。</p>	○	<p>年間を通して、研修計画を立て、全職員が何らかの研修に参加出来るように計画を立てる。個別に研修の参加を促す</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修・交流会を通して情報を得られており、反映する機会を得られている。</p>	○	<p>近隣のグループホーム同士の交流する機会を得る</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>出来るだけ、職員の意見に耳を傾け、何時でも話を聞けるようにしている。環境作り等については、話し合いで考えていき、それについては、職員の希望を取り入れていきたい。</p>	○	<p>何が、職員のストレスなのかを、個々と話し合っていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の努力等については、把握しているつもりであるが、それについて、反映される内容については、公平を保つようにしている。</p>		<p>個々の力量とやる気・調和等を考慮して、今後も職員を見ていきたい。</p>

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご本人の普段の会話から、少しの情報も逃さず、できる限り、本人の困っている事、不安な事は、話を聞き、職員がどのように対応していくか話し合う努力をし、信頼関係作りは行なっている。又、施設に入りたてで慣れていない頃は、良く接し話す機会を多くしている。</p>		<p>今後も、その都度本人の不安があればその課題に取り組む様に努力をする。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>全職員が、家族からの相談があった場合は、話を聞くようにしている。又内容に応じて、会議で話し合い、対応策を講じている。</p>		<p>御家族によっては、中々会う機会も少ないが、お会いした際は必ず言葉を交わすように努め、徐々に信頼関係を築いていきたい。</p>
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた際は、その件につき速やかに対応をする努力を惜しまない。又、即日回答が困難な内容については、他からの情報を得る努力をして出来るだけ早いかけつけに努める。</p>		<p>御家族の不安等を早期に見極め、先に提案をしていく事で、安心していただけるように取り組んでいく。</p>

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	始めは、慣れて頂く事を目標とし、ご本人が安心して過ごせるような雰囲気作りや人間関係を作るようにしている。		これからも、継続していく。其のために事前の情報収集に努め、知り得た情報を職員全員で共有していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の会話などで、年長者として職員の知らないことを教えていただき、職員が一つの家族のように温かい関係を築けるように日々努力して交流している。		これからも人生の大先輩として敬い尊敬の念を忘れずに、昔の経験や知恵を傾聴する事をわすれないでおく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族様にも、「自分の実家」に帰る様な感覚で、施設に気軽に来て頂けるよう接する努力をしている。		遠慮気味な御家族もいらしゃる。もっと気軽に開放的な雰囲気作りを行う。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人と御家族の意見を、できる限り尊重し、穏やかな関係が築けるよう努力している。		介護者は、一方の意見に偏ることなく、常に公平な立場でいる事。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節のお便り(年賀状)を出して交流を行なっている。		個別レクリエーションの中で、今まで行っていた所などにお連れし、昔を思い出していただきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の交流が難しい場合は、職員が中に入って、コミュニケーションをとれるように努めている。	○	職員が利用者の多くの情報を元にこれからも、孤立しないように楽しみを持ってみなで暮らしていけるように取り組んでいきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入所された方については、時々その方のご様子を尋ねている。また、退所されてからも、相談が持ち掛けられた場合は、その範囲の中でアドバイスをし、他の関係機関を紹介等している。	○	今後、そのような方がいらしたら、出来る限り関係が切れないようにしていきたい。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションが取れる方に関しては、居室担当がご本人の思いを確認して意向を把握している。困難な場合においては、ご本人の言動等から意向を把握するよう努めている。		これからも今以上に職員間で話し合いをし、その方にあった暮らし方を検討していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活パターンを重視し、その方がその方らしく安心して暮らせる環境を作る努力をしている。日々の生活の中で得られた生活歴に関する情報は記録に残す等把握に努めている。		利用者の生育歴を把握しその状況に応じ対応できるようにしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の状況を詳しく記録(日誌)に残し、申し送る事により職員全員で情報や特変事項などを共有し、常時、現状把握に努めている。	○	一人一人の身体の状況に加えて、一日をどのように過ごされたかを記録し、心の変化にもめをむけていきたい。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月ケース会議を行ない、職員全員が集まりサービス内容を考えている。ご家族からの意見があった場合は、それについても検討をしている。		引き続きケース会議の中で検討をしていくが、必要に応じてその都度会議を行ない、早期解決に向けていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身の変化については、随時把握するように連絡ノート等を利用し必要に応じて話し合い、内容についても見直しをしている。	○	介護計画については、一目見ただけで、介護方針がわかるような内容とし、変更が生じた場合は速やかに見直しを行い、全員に周知する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体の日誌をはじめ、個別の記録を作成し、情報を共有し、気づきの提供、提案を示す。日々の状況を細かく記録することにより、職員間で、情報を共有してケアプランの見直しに生かしている。	○	日中の出来事やご本人の心の状態についても、記録に残して介護をしていく。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設内だけではなく、クリニック受診やパワーリハビリ等にも行ける様に手配をしている。		これからも、事業所の多機能を活用していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣との関係づくりや、消防への挨拶等を行い、開かれた施設運営に心掛けている。また、多くのボランティアの支援を受けている。	○	これからは、近隣等との関わりについては、ご本人の意向を取り入れながら、支援していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	作業所に通っている方には、それに伴う支援を行い、いつでもその方にあったサービスが無いか、情報を収集している。		外出が中々出来ない方のために、何かその方に合ったものはないか、情報の収集に努める。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通して、連携を図り、何時でも相談や支援が受けられるような体制作りが整っている。		これからも、連携が図れるように、情報の共有化に努める。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が月2回往診し、職員はその際に、ご本人の体調やご希望を医師に伝え、又医師の返答を利用者に的確に伝える。		これからも、ご本人とご家族の希望は尊重し、支援をしていく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医の月2回の往診の際に、認知症についての相談も行なっている。	○	これからは、何時でも主治医等に気軽に相談が出来るような体制作りを努めていきたい。
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ケアマネが看護師資格者である為、必要に応じて相談しアドバイスを貰っている。看護師と医師との繋がりも出来つつある。		互いに協力し、更に専門的に学べる機会を確保する。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合は、定期的に入院先を訪問し、病院関係者から情報を収集し、施設内において出来るだけ早期退院に向けて受入れ体制を整えている。		これからも、入院されたことで、身体のレベルを下げない様早期退院をして頂き、病院関係者と相談に努めていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医やご家族と小まめに連絡を取り合っている。そして、その方が本当に望まれることを第一優先とし、方針が決定したら、その内容についてご本人・御家族・主治医・介護職・施設とで共有する。その内容について、文書が必要であれば、準備をしている	○	今後、ターミナルについての勉強会を開き、ル・ミエールとしての基本姿勢を打ち出していく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人を始め、御家族の意向を尊重し、緊急時の対応方法は、主治医の指示の下、取り組まれている。	○	これからも、主治医・介護職全員で共通の意識を持ち、同じ方向で介護が出来るようにしていく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院や他施設に移動が決定した場合は、ご本人を含め御家族と話し合いを持ち、移動先でよりスムーズに溶け込む事が出来るように情報を提供し、不安が解消されるように、話し合いの機会を持っている。		これからも、相談援助については、引き続き継続をしていく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「安易な言葉掛けが、虐待に成る事もある」事を、日頃から職員に話し、場合によってはその場で注意をしているが、全体的にはいつも、丁寧な言葉掛けが出来ているように思える。		これからも、個人の生育歴や生活歴を尊重し、知り得た情報については、記録等に残す場合は、言葉や書き方に充分注意をすることを気をつける。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の訴えに耳を傾け、否定はせずに、何かあった場合は、納得していただく様に話しをする。		押し付けることなく、個人を尊重して対応していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方に合った体力や行動力・又こだわり等に出来るだけ希望に添った支援を行うように努力をしている。	○	今後もその方に合ったその日のペース作りを心掛けたいが、勤務の状況等で、入浴日等を変更をお願いしてしまうこともあるので、できる限りその方のペースを乱さないように体制を整えていきたい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の整容(洗顔・整髪・着がえ)は、毎日行なわれている。又、入浴時は髭剃り、つきに1回は理美容も実施されている		おしゃれについては、それぞれに対応している。又、特別な日においては、女性はお化粧をし、男性についても、ネクタイを締め、背広に着がえたりもする。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事に関しては、出来るだけ季節の食材を取り入れ、果物も毎回提供できている。又、お誕生会や行事食については、入居者の希望を取り入れ、誕生会については、その方の好みや郷土料理を提供している。その、お手伝いについては、出来る方に、その方の出来る事をお願いしている。		食事ボードを作り、毎日の食事メニューを利用者がかくにんできるようにしている。食事の簡単な準備や後片付けは、職員と一緒にこなしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物・おやつについては、嗜好を充分に取り入れるようにしている。酒・タバコについては、禁酒・禁煙の方の関係から、場所を決めて楽しんでいただいている。但し、前記2点に関しては、主治医の了解の元とする。		体調等を考慮して、出来るだけご本人の意向に添うように、していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄管理の必用な方は、定時にトイレの声掛け、誘導を行い、排泄表にチェックをしている。それにより、体調等の身体の様子も随時確認をしている。又、特別な事情の無い限り、昼夜オムツの使用をしていない。		トイレ誘導等により、失禁を減らし又、排泄時間の間隔を測る等をしている。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できる限り、希望日や時間帯を考慮している。又、その時の状況(失禁等)に応じて、何時でも入浴に応じている。拒否があった場合は、決して無理強いしない。		又、入居者の生活リズムを理解し、支援できていると思う。これからも、拒否があっても決して、無理強いしない。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	お一人お一人のペースを大事にし、食事後や入浴後の休息についてはご本人の自由としている。また、暑い時や寒いときに応じ、夜間でもクーラー等の調整を小まめに行う。夜間は、2時間に1回巡視を行い、利用者が安眠できているかどうか、確認をしている。		今後も、それぞれの生活のペースを乱すことの無いように、ご本人を尊重した支援をしていく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の家事(食器の片付け、洗濯物のたたみ等々)を毎日の日課として、レクリエーションの時間も設けて出来る事したい事を提供している。又、個別レクリエーションと称し、今、ご本人のしたいこと。行きたいところ。等を会話の中から、探り出し、個別に実施している。		これからも、その方の生活歴や生育歴等の情報を得て、その方が、今一番されたいことを探り出し、その事が叶えられるように支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使用しない時には、事務所で預かりし、買い物や、お出かけの際に持ち出し、必要に応じてご本人にもレジに立ち会っていただいている。	○	その方に応じて、ご本人もちのお金を所持していただきたいが、今後の課題でもあるが、難しい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブについては、日常的に行っており、外出や外食は月に1回程度、又個別に外出する機会も設けている。		今まで通りに、外出の機会を設けていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別性を重視し、個別レクリエーションの一環として、ご本人に合った外出先を選択している。		これからもその方に合っている場所などを話し合いながら決めて、個別に出掛けたいと思っている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望の合った場合や、不穏の状態が見られたときには、電話を掛けていただいている。季節のお便り(年賀状など)をご本人の手書き等により作成し、お出ししている。		今まで通りに支援をしていく。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問については、何時でも受け付けている。		施設内で、誕生日会や納涼祭・敬老のお祝い等行事のある時はご家族様を初め、馴染みのある方には引き続きご連絡をしていただけるようにする。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、「しない事が基本姿勢」であることを職員が理解しており、拘束はしていない。但し、建物上危険をとまなう場合は、入居者の状態によっては、一時的に施錠をすることもある。但し、その状態が回避できた場合は、速やかに現状に戻している。	○	これからも、身体拘束杜は何か！を職員間で学び周知していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に玄関や居室には、鍵は掛けていない。強風時、夜間時のみ安全を考えて、門を閉めている。		これからもできる限り、本人の行動の自由は大切にしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、本人の行動を抑制することなく、自由に過ごされるように配慮しており、外に出られる事があれば、必ず職員が同行している。夜間は、安眠を妨げないよう配慮しながら、2時間に1回巡視を行なっている。又、ご本人が、眠りに入れずフロアーに出られた際は、一緒に話しをしたり、テレビを見たりしながら、眠りに入るまでを共に過ごしている。		危険！事故！＝させない！ではなく、これからもご本人の自由を尊重できる介護に努めていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品(包丁等)は、決められた場所(施錠のできる場所)の決められたケースの中に使用後は必ず仕舞うこととしている。	○	今後は、入居者が自由に使えるように、はさみ・爪切り等は置ける体制を整えていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	これらの項目については、日頃より事故回避に向けて、個人個人が注意をしている。食事に関しては、食事中は必ず見守りの職員が着くこととしている。その方の食事形態についても、そのときの状況に併せて、調整し事故防止に取り組んでいる。嚥下困難な場合に対応出来るように吸引ノズルを備えている。		今後も出来る限り、事故防止について、話し合い、取り組んでいきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	申し送り、業務会議を通して、確認をしている。応急手当のマニュアルは用意されている。又、急変時に医師や管理者と常に連絡が取れるような体制作りを行っている。	○	今後は、応急手当や所期対応について、講習会等に参加出来る機会を設けていきたい。
	○災害対策	年に1～2回の消防訓練を行なっている。又、地域の方々か		

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	らの協力が得られるように、日頃から地域の方との連携はとっている。日々の中で、いざ！というときのために、2階の方については、階段を利用したり、体操によって足が弱くならないように、心掛けている。	○	全職員が参加できるような働きかけを行ない、周知していくこと。又、今後も、地域の方とのかかわりの中で協力体制が得られるように連携をとっていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	体力や、その他身体的な状態に変化が生じた場合は、常に御家族や関係者に管理者又は、医師より連絡をして説明をしご理解を頂いてから行なっている。		これからも、小さな事と思えることも、御家族や関係者の方にご連絡をして連携をとっていききたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	小さな身体の変化(身体の傾き・浮腫み等)は、連絡ノートに記録し、早期に職員間で共有出来る様にしてしている。又、その件に関しては医師にも連絡をとり、情報を提供しており、指示を仰ぐ体制が整っている。		早期発見が小さな事で済むように、今後も速やかに情報を共有し対応をしていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日、夜勤者と早番が薬のチェックをし、薬の漏れが無いようにしている。又、毎回の服薬介助者も、何勤の職員が行なうのかも、決めている。又、服薬の内容については、往診時に「薬の説明書」が届く為、それによって、日頃から確認は出来ている。	○	これからも、常に薬についての理解は行い、正しい薬について学ぶ必要がある。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬ばかりに頼らず、食生活や運動に心がけ、便秘予防に努めている。又、腹部マッサージやホットパックも利用している。		その方の排便サイクルをしっかり菌悪して、日頃から、ご本人に排便の苦痛を与えないように心掛ける。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に、口腔ケアを実施し、その方の歯の状態に応じた歯ブラシを使用するなどをして対応をしている。介助の必要な方については毎回職員が対応している。その際に口腔内の観察も忘れずに行なっている。義歯に関しては、每晚収納ケースにしまい、消毒を行なっている。		口腔ケアを行なった際に、口腔内の変化があった場合は、必要に応じては、歯科医師に連絡をとり、受診をしている。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回、飲食・水分の記録は行い、個人の状況に合わせて、お好みの飲食を提供をしている。又、その時の体調や、気分によりその方の身体状況に合わせた、飲食物を提供している。		これからも、栄養バランス等を考えながら、ご本人の嗜好を取り入れ、楽しめるものにしていきたい。又、表を常にチェックして一定の量を摂取できるように注意を払う。
	○感染症予防	インフルエンザの予防接種は、毎年摂取している。その他の感		

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	染症については、早期情報の収集をし、予防に努めている。また、食材の取り扱い方、入居者との接し方に気をつけている。感染症の流行時期には、来客の方にも張り紙等で注意を促し、手洗い・うがい・マスクの使用等のご協力を頂いている。	○	スキルアップの為に、講習会等に積極的に参加をしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常時手指の消毒の為に薬を準備しており、調理器具も1日1回は消毒し、食器については、高温乾燥を毎回使用時に行なっている。食品の賞味期限についても、気をつけ、食材も安全に取り扱うように心掛けており、食品管理が出来ている。又、食品庫の整理も出来ている。食品衛生管理の講習会に参加した職員が率先して行なっている。		食事の準備の際は、専用のエプロンを使用し、定期的に洗濯をしている。これからも、衛生管理に努め、食中毒の予防に努める。

2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1)居心地のよい環境づくり

80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は門扉を開放している。玄関や庭には綺麗に花が植えられており、雰囲気が明るくなっている。入居者からは、「花のル・ミエールだね。」との言葉を頂いた。近隣の方からも、お褒めの言葉を頂いている。		これからも、季節の花々を植え、入居者に楽しんで頂けるようにしていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・フローア・テーブルの上等に季節の花を飾り、それぞれの居室にも自分で活けた花を飾っている。壁には季節感を表現した壁紙が貼られている。また、フローアには常に、ささやく程度の音楽が流れている。		これからも、季節感を取り入れながら、更に家庭的な雰囲気作りに努めたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳スペースを用意し、自由に使用出来るようになっている。また、その畳スペースは、半畳ごとに移動が出来る為、その時に応じて、変えられる様になっている。		入居者の中には決まった席があり、入居者同士も解っており、更に入居者同士の憩いの場所になれるように、工夫していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れた物を使用していただいている。それに伴い、安全に配慮した配置を心がけている。		あくまでもご自分の部屋を基本に部屋作りに心掛けている。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>清潔なホームを目指しているので、日中は空気交換などをまめに行い、入居者に合った温度調節を行なっている。</p>		<p>今後も、ご本人の体調等に配慮した温度調節を行なっていく。また、入居者(高齢者)の体感温度を大切に考えていく。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ベッドの高さ、個々に合わせたベッド柵、テーブルの高さ、椅子の高さ等を本人に合わせている。又、足が床に付かない場合や安楽な状態で座れない場合は、手作りの足置き等を使用して、調整をしている。</p>		<p>体調やその時の状況に合わせて、その方にとって一番良い状態で生活が出来るように支援をしていく。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>ご本人の状況を把握し、出来る事は、自分で行うように支援している。</p>		<p>一方的な援助ではなく、「出来ないところは支援をしていく。」という方針を職員全員が理解し、同一の介護に徹していく。それには、もっと入居者とかかわり、ちょっとした会話の中から、その方のわかる力を探っていくこと。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダにベンチを置いたり、庭に花を植えたりし、散歩が楽しめるようにしている。また、ベランダや窓から花を見られるように配置をしている。</p>	○	<p>入居者と一緒に草花を植えたりして、参加型に努めていきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

数ある施設の中から、[ル・ミエール]をお選びいただき、ご本人様を始め、ご家族様からも此処でよかった！又職員からも、このホームで働いて良かった！と思えるようなホームを目指していきたい。職員が働きやすい職場であれば、必ずやそれは、入居者に対して良いケアに繋がることは云うまでもない。と考えています。それには、職員の提案に耳を傾け、御ひとりおひとりの人格を尊重し、入居者様の個別性をより重視した企画を実施しています。興味のある事・行きたい場所・食べたい物等を把握し、今、その方のされたい事！をできる限り実現できるように企画しています。又、それは個別であったり、小人数参加企画の為に入居者様にゆっくりと安全に楽しんで頂く事が出来るものです。御ひとりおひとりに合ったイベントを提供する事で、充実した時間を増やし、グループホームならではの「家庭にいるような楽しさ、柔軟さ」を実感して頂くよう取り組んでいます。